

有明工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	生産情報システム技術英語	
科目基礎情報							
科目番号	PI018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産情報システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材	授業中に配付するテキスト						
担当教員	坪根 弘明,伊野 拓一郎,原 武嗣,南部 幸久,石橋 孝昭						
到達目標							
1. 工学一般, 自然科学または専門分野に関する書籍や文献の内容を理解し, 文章読解能力を習得できる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	工学一般, 自然科学または専門分野に関する書籍や文献の内容を理解し, 正しい語句を使用して詳細に説明できる.			工学一般, 自然科学または専門分野に関する書籍や文献の内容を理解し, 説明できる.		工学一般, 自然科学または専門分野に関する書籍や文献の内容を理解していない. あるいは説明できない.	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2							
教育方法等							
概要	工学や自然科学は国際的な学問であり, その研究成果の発表は英語で書かれた論文によって行われることが通常である. したがって, 技術的な英語の文書を正しく理解し, かつ効果的に書く英語力を身につけることは技術者にとって必要なものとなっている. 生産情報システム技術英語では各担当教員によって与えられた教材を使い, 工学, 自然科学分野で実際に用いられる技術英語について演習形式で学習する. これにより, 本科で学習した英語の基礎的な読解力および作文力をさらに向上させ, 技術文献などの専門的なドキュメント読解・作文能力を修得することを目標とする.						
授業の進め方・方法	工学一般, 自然科学または専門分野に関する書籍や文献についての文章読解能力を, 演習内容およびレポートで評価する.						
注意点	これまでに身につけてきた英語知識をもとに, 技術文献を理解する. また, 取り扱う内容について専門的な要素を含むため, 工学の基礎知識を必要とする.						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		2週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		3週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		4週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		5週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		6週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		7週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		8週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
	2ndQ	9週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		10週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		11週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		
		12週	各担当教員が準備する教材を利用して, 演習を中心としたゼミ形式の授業を行う. 授業は各担当教員の計画に従って行う.		各専門分野の授業内容を理解できる.		

		13週	各担当教員が準備する教材を利用して、演習を中心としたゼミ形式の授業を行う。授業は各担当教員の計画に従って行う。	各専門分野の授業内容を理解できる。
		14週	各担当教員が準備する教材を利用して、演習を中心としたゼミ形式の授業を行う。授業は各担当教員の計画に従って行う。	各専門分野の授業内容を理解できる。
		15週	各担当教員が準備する教材を利用して、演習を中心としたゼミ形式の授業を行う。授業は各担当教員の計画に従って行う。	各専門分野の授業内容を理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0